

2. 男女全体でストレスを感じている人が増えている。
3. 男性全体の2割が「相談相手がいない」と答えている。

(対策)：浜田圏域の健康課題の改善につながる取組を強化しよう！

- 柱1 「健診(精密検査)・保健指導を受けやすい環境づくりの推進」
- 2 「心身の健康に関する情報提供の充実」
- 3 「生活改善等の動機付け支援の充実」
- 4 「保健指導の内容・教材の活用」

〈平成18年度〉

平均寿命、平均自立期間の延伸を目指し、働き盛りの年代から、生活習慣病予防・介護予防を意識した取組を展開する。特に脳卒中発症予防のために、メタボリックシンドロームの概念や、高血圧等の適正管理、食生活改善、運動の推奨についてアプローチする。また、自殺予防対策としてメンタルヘルスに関する正しい知識の普及を行う。

- 1 浜田圏域地域・職域連携推進協議会の開催(年2回)
  - ①関係機関の役割を明確にするため、行動計画策定を検討する。
  - ②個人が健康情報を経年的にファイル管理する活動を普及する事柄について検討する。
- 2 浜田圏域壮年期保健対策検討会の開催(年1回)
  - ①浜田圏域の健診結果や健康課題に関する検討を行い、共通認識する。
  - ②脳卒中発症予防のために、メタボリックシンドロームの概念や、高血圧等の適正管理、食生活改善、運動の推奨について効果的にアプローチできる手法等を検討する。
- 3 職場の健康づくり講演会の開催(11月30日開催)
  - ①事業所の健康づくり活動優良事業所表彰
  - ②講演「職場のメンタルヘルス」 講師 管内精神科病院医師 他
- 4 市町村支援
  - ①浜田健康寿命延伸プロジェクトへの参画
  - ②江津市職域保健部会への参画
- 5 関係機関・団体支援
  - ①事業所出張講座(メンタルヘルス等)の実施
  - ②健康づくりアドバイザー派遣事業の実施
  - ③健康機器の貸出 等

〈浜田地域・職域連携推進協議会を実施した評価〉

1. 取り組んで良くなったこと
  - ①浜田圏域の健康課題を共通認識できた。
  - ②地域保健・産業保健関係者の構成団体により、各団体の事業や情報の共有ができた。
  - ③具体的な取組(例：まめなくんファイル作成)については、実務者でワーキング会議を開催し、協議できるようになった。
  - ④共通して活用できる教材が作成できた。(情報マップ、パンフレット)
  - ⑤優良事業所が年々増加。管内各市の産業保健部会の構成員として役割を發揮されている。
2. 今後の課題
  - ①浜田圏域の健康課題の改善につながっていない。具体的に日常生活で取り組めることを提示していくことが必要である。
  - ②構成団体が、自主的に活動できるような役割分担を明確にする必要がある。
    - ・平成20年度の特定健診、保健指導に関する準備を進めることが必要である。

**\*参考までに添付**

**健康管理・健診経年ファイル「まめなくんファイル」の作成**